

「リトルティーチャー！小学生に学校紹介 in English」

本単元で育成する資質・能力

表現力、コミュニケーション力

- 1 日 時 令和3年2月25日（木） 2校時
- 2 学年・学級 3年A組（男子16人，女子12人，計28人）
- 3 単元名 POWER-UP 6「ホームページで学校紹介」（Sunshine English Course 3 開隆堂）
- 4 本単元を指導するにあたって

【単元観】

本単元は、中学校3年間の集大成である卒業プロジェクトとして行うパフォーマンス課題の一つである。教科書では、生徒自身が自校の英語版ホームページ作成するという内容でライティング活動をさせることを目的として設定され、モデルとして学校行事と部活動について紹介する英文が示されている。しかし今回本校では、ホームページ用の学校紹介文ではなく、「小学校外国語活動の教材として小学6年生への学校紹介ビデオを作成する」という内容に変更して行う。今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、3学年の総合的な学習で行われるはずであった「リトルティーチャー」が実施できなかった。このことも兼ねての題材設定である。

英作文にはこの3年間で学習してきた言語材料を自由に自己決定して使うことになり、自分の思いをより自由に伝えられる単元である。自由度は増すものの、その分、伝える相手に合わせ、どのような内容を紹介すべきか、わかりやすく伝えるために様々な種類の表現の中からどの表現を用いるべきかなど、英語の知識・技能、表現力だけではなく、より高いコミュニケーション力や判断力が求められる。教科書のモデルはホームページ用であり、小学生には少し難しい表現を用いている。そのことに気づき、どのように変えればよいか考え必要がある。

本単元では、学習指導要領の内容（1）言語活動のエ 書くこと（オ）「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」に位置づけ、自分が伝えたい学校紹介文を書いて表現する力を養う。

【指導観】

3年間のまとめの時期でもあり、高等学校入試前ということもあり、3学期は毎日問題を解く課題を出している。また授業でも、毎時間の帯活動で、即興会話練習や単語、リスニング、文型テストを行い、基礎的な学習内容の定着を図ってきた。英作文対策も実施し、自分が言いたいことに合わせて学習してきた表現を選ぶこと、さらに、うまく表現できない時は自分の言いたい日本語の表現を変えてみるなど、英作文のコツも再確認した。難しい英語を用いなくても、簡単な表現を組み合わせることで、自分が伝えたいことを表現することができることを実感させ、英作文への意欲を引き出したい。

また、本校の研究テーマである『「主体的に学ぶ生徒を育成する授業づくり」～「学習の振り返り」を通して学びを深める生徒の育成～』に照らし、これまで授業の中での振り返りを行ってきた。本単元でも、活動の途中で自ら振り返る場面、他の生徒とともに振り返る場面、振り返りを全体で共有する場面などをもつことにより、より良い表現を生徒が追及できるようにしたい。さらに、振り返る中で、そもそも「より良い表現」とはどのようなものなのか、生徒自身に気づかせ、深めさせたい。

【生徒の主体的な学びを促すポイント】

- 実際に小学校6年生に伝えるという場面設定をすることで意欲をもたせる。
- 相手に合わせて分かりやすい説明をすることを目標として設定させ、どのようにすれば良い説明になるか生徒自身に考えさせる。
- 振り返りを行う中で他者の意見にも触れ、自分の意見との共通点や相違点を見つけさせることで、深化への意欲を促す。
- 自分の意見を表現することが難しい生徒や、英語を「書くこと」が苦手な生徒でも取り組めるよう、モデル文を与えたり、共同的な学習形態を取り入れる。

【基礎・基本の定着】

（１）習得すべき基礎・基本について

- 自分の思いを表現するために必要な、語や文法事項を理解している。
- テーマに沿ってまとまりのある英文を書くことができる。
- 相手に伝わるように表現内容を工夫することができる。

（２）定着への手立て

- 授業中の帯学習と家庭学習において繰り返し練習させる。
- 個やグループ内の活動で、間違い・課題・疑問点などが出た時、その都度全体で共有する。
- 参考になる例文を与える。

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①既習文法事項や辞書等を活用して、積極的に英文を書こうとしている。 ②相手に伝わる良い表現方法を考えながら書こうとしている。	①既習の文法事項を用いて、目的に応じて、英文を書くことができる。		①既習の文法事項の用法等を理解している。

- どのような工夫をなぜ行ったのかを記録させる。

5 単元の目標

- 既習事項や辞書等を活用して、積極的に英文を書こうとしている。
- 相手に伝わるように工夫しながら、まとまりのある自分の考えや気持ちを書くことができる。
- 既習の文法事項の用法等を理解している。

6 単元の評価規準

7 本単元を通して伸ばしたい資質・能力

※塩町中学校区では、小中9年間で身に付けさせたい6つの能力を定めている。（重点◎）

塩町中学校区6能力	
カテゴリー 【学力の3要素】 《評価の3観点》	資質・能力

【思考力・判断力・表現力等】 《思考力・判断力・表現力等》	①思考力・判断力 (筋道を立てて自分で決める力)		②表現力 (自分を表現する力)	◎
【学びに向かう力・人間性】 《主体的に学習に取り組む態度》	②課題発見力 (情報を活用し課題をつかむ力)		④コミュニケーション力 (関わる力)	○
	⑤キャリア形成力 (課題解決のために努力する力)		⑥感謝・貢献 (他者に感謝し自分を役立てる力)	

◎表現力 ……相手に伝わることを意識した英文を書くことができる。

○コミュニケーション力 ……相手に伝わるようにするために必要な表現を考え選択することができる。

8 指導と評価の計画（全2時間）

次	学習内容 (時数)	評 価										
		関	表	理	知	評価規準 (評価方法)	資質・能力					
1	○パフォーマンス課題について知り，単元の内容を読み取る視点をもつ。											
	「リトルティーチャー！小学生に学校紹介 in English」 今年はリトルティーチャーができなかったので，小学校6年生の外国語授業の教材として，中学校の学校紹介ビデオを作成して届けよう。 モデルとして，ホームページ用の学校紹介文を読み，表現を参考にしよう。											
	○「書く力」の評価指標を知る。											
	評価指標（ループブリック） <table><tr><td>A (素晴らしい)</td><td>・ Bができている。 ・ 英文が7文以上（挨拶以外で）書けている。 ・ ただ説明するだけでなく，聞き手に興味をもたせる内容になっている。</td></tr><tr><td>B (良い)</td><td>・ モデル文を参考に，自然な流れで構成された6文程度（挨拶以外で）の説明文が書けている。 ・ 相手に伝わりやすい内容になっている。</td></tr><tr><td>C</td><td>・ Bに達しない。</td></tr></table>						A (素晴らしい)	・ Bができている。 ・ 英文が7文以上（挨拶以外で）書けている。 ・ ただ説明するだけでなく，聞き手に興味をもたせる内容になっている。	B (良い)	・ モデル文を参考に，自然な流れで構成された6文程度（挨拶以外で）の説明文が書けている。 ・ 相手に伝わりやすい内容になっている。	C	・ Bに達しない。
A (素晴らしい)	・ Bができている。 ・ 英文が7文以上（挨拶以外で）書けている。 ・ ただ説明するだけでなく，聞き手に興味をもたせる内容になっている。											
B (良い)	・ モデル文を参考に，自然な流れで構成された6文程度（挨拶以外で）の説明文が書けている。 ・ 相手に伝わりやすい内容になっている。											
C	・ Bに達しない。											
2	○教科書のホームページ用のモデル文を読み取り，参考になる表現をつかむ。 ○自分が何について紹介したいか決める。 ○自分が紹介したい内容を考え，作文する。 (1)	○	◎		○	ア①(活動の様子) イ①(ワークシート) エ①(ワークシート)	表現力(ワークシート)					
	○自分と同じカテゴリーについて書いている生徒同士でグループを作り，各自が書いた紹介文を伝え合う。 ○グループでみんなの意見を組み合わせより良い表現になるよう一つの文にまとめる。 ○自分と違うカテゴリーの生徒と紹介文を見せ											

合い、さらに助言をしあう。 ○自分と同じカテゴリーのグループに戻り、もらった意見を踏まえさらに修正を行い、文を完成させる。 (1)	○				ア②(活動の様子)	表現力 (ワークシート) コミュニケーション力 (ワークシート)
○読む分担を決め、音読練習する。 ○撮影する。						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

友達の助言を取り入れて、グループで紹介文をより伝わりやすい表現にすることができる。

(2) 観点別評価規準

ア② 相手に伝わるようにするためにより良い表現について考えながら書こうとしている。

(3) 準備物

ワークシート、辞書

(4) 学習の展開

	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	評価規準 (評価方法)
導入	○あいさつをする。		
展開	○本時のめあてを知る。 グループでより伝わるような表現に改善することができる。 ○自分のグループ内で一人ずつ自分が作った文を伝えあう。	○一人2分ずつの持ち時間内で、発表し、工夫した点を話したあと、他の生徒が文法や内容について質問、アドバイスしよう。 ☆伝わりやすいように文の順を考えた。 ☆「○○」ということが言いたかったが、小学生に伝わるような表現が思い浮かばなかった。 ◆全て書けていない生徒は書けているところまで言わせ、考えている内容を日本語でもいいから伝えさせる。 ●自分が考えた文を言うだけで終わらず、工夫したことも伝えさせる。また、他の生徒に必ずアドバイスや意見を言わせる。	ア② (行動観察)
評価指標 (ルーブリック) で B 評価の生徒の英文例 挨拶 Hello. テーマ We will tell you about school festival. 時期 We have a school festival in October. 内容 We have chorus contest. <u>All the classes practice very hard to win the contest.</u> This year, we had chorus contest in Kiriri. 感想 We will have a school festival in October.			

		振り返り①	よりよく伝えるためのポイントに気づかせる
○各グループで出た工夫点やアドバイスを交流する。	○各グループでどんな工夫やアドバイスができたか。		
	☆小学生にわかりやすい単語や文法を使う。 ☆難しい語を使う時などは視覚的な支援を行う。 ☆内容のつながりに気を付けた文の構成を考える。 ☆興味をもたせるような工夫をする。 ◆出た意見を板書する。 ●小さな気づきや悩みなども含めてすべて言わせることで、新たな視点を発見するきっかけにつなげる。		
○全員の文章をもとにグループ内で1つの文章にまとめる。	○情報の取捨選択をし、グループで一つの文にまとめよう。		ア② (行動観察)
	☆どのような流れだと伝わりやすいか。 ☆この表現の方がわかりやすいのではないか。 ☆今の情報だけだと少ないのではないか。 ☆興味を持てるように、問いかけなどの工夫をしてはどうか。 ◆先ほど全体交流した点を板書を示しながら思い出させる。 ◆この後他グループとの交流に向け、メンバー全員がグループの文を書けているか確認し、必要であれば他メンバーに協力させる。 ●机間指導を行い、そのグループに足りていない視点があれば切り返しの問いかけを行い気づかせる。		
○できた文章を他のグループの人に伝え、意見をもらう。	○ジグソー方式で違うカテゴリーのグループの人と新たなグループを作り、その中で、自分のグループの文章を伝え、意見をもらおう。 一グループ2分ずつの持ち時間内で、発表し、工		

	夫した点を話したあと、他の生徒が文法や内容について質問、アドバイスしよう。 ☆この文法はわかりにくいから別の表現を使った方がよい。 ☆新たに〇〇の情報についても加えたらどうか。 ◆一人での発表が難しい生徒もいるので、各グループ2人ずつで他グループと交流させる。 ●互いにアドバイスだけでなく良い点も言わせる。	
	振り返り② 自分のグループの文章に対する意見をもとに、修正・改善を図る	
○自分のグループに戻り、他グループからもらった意見等を報告しあい、修正を考え、完成させる。	○他のグループでもらったアドバイスを自分のグループで伝え合い、文章を修正しよう。 ☆この表現では伝わりにくいから変えた方がいいと言われた。 ☆「〇〇」についての情報を加えてはどうかと言われた。 ☆他のグループの「〇〇」の表現・工夫がよかったので取り入れてはどうか。 ◆メンバー全員がグループの文を書けているか確認し、必要であれば他メンバーに協力させる。 ●他の意見を聞いて必ず変更しなくてもよいことを伝える。 ●完成したグループには、撮影に向けての分担やさらなる工夫を考えさせる。	ア② (行動観察)
	振り返り③ よりわかりやすく伝わるように工夫した点などを振り返る	
○授業を振り返り、グループでどのように工夫し、改善を図ったか、記述する。	○今日の交流でどのように工夫し改善したかを振り返ろう。 ☆これまで学習したことをいろいろ駆使して英文を作ることができた。 ☆小学生によりわかりやすい文になるよう、使う表現やつながりに気を付けて文を作ることができた。 ☆「〇〇」という表現をよりわかりやすく伝えるために「△△」という表現に変えた。 ☆グループや他のグループの人と意見を交流することで、自分だけでは考えつかなかったことに気づき、よりよい英文をつくることができた。	

	○次時の確認をする。	◆ワークシートのこれまでの記録を振り返らせる。 ●どんな意見をもとに、どのように変えたか、変えなかったかなども振り返らせる。	
--	-------------------	---	--

(5) 板書計画

学習のめあて	グループでより伝わるような表現に改善することができる
(交流時にでたアドバイスや工夫点)	(交流時に出た良い表現)